保健師最前線

頼られる存在を目標に

八幡市

(左から)
社領　弥生さん
髙橋　実佳さん

同じ高校・大学に通っていた先輩と後輩という間柄。そして、２人とも今年度の４月から八幡市の保健師として勤め始め、日々奮闘している。

「保健師になる前に２年間、看護師として働いていました。」という髙橋さん。結婚を経て、看護師から保健師へと転職した。看護師時代に、治療が終わっても不安を持って退院していく患者の姿を見てきたため、地域に密着し、不安を持って生活をしている住民をサポートできるような保健師になりたいという。

社領さんは母親が看護師だった影響で、幼い頃から看護師になることが夢だったという。しかし、大学に入り、保健師について学んだとき、予防に着目して、実際に地域に出て住民と接しながら一緒に課題に取り組むという活動に興味を持ち、最終的に保健師の道へ進むことを決めた。

「まずは相手の話を聞くよう心がけています。」
乳幼児健診や特定保健指導等を行う中では、対象者の取り組んでいることを把握し、具体的なアドバイスを提供するよう努めている。

また、大切なことは自分から動くということ。できるだけ多くの住民と関わり、できる限りの問題を解決できるよう、健診等にあまり参加できていない対象者に電話勧奨など、積極的に働きかけるようにしている。

これまで働いてきて数ヶ月経つが、実際に保健師となる前に想像していた仕事内容との相違、大学などで学んでいない知識が現場では当たり前のように必要であることなど課題は多い。しかし、その時々で着実に課題をクリアできるよう心がけている。
「頼りにされることに喜びを感じますし、問題の改善に手助けできることにやりがいを感じます。」
保健師として住民から、また一緒に働く仲間からも頼りにされる存在を目標にして、色々なところに目を向け、課題を見つけて現状改善できるよう様々なことに挑戦していきたいと語った。